

令和8年度第3回狛江市教育委員会の自己点検及び評価に関する審査委員会会議録

1 日 時 令和8年6月29日（月）午後6時30分～7時10分

2 場 所 狛江市防災センター3階会議室

3 出席者 委員長 渡辺 秀貴（学識経験者）
副委員長 常盤 豊（学識経験者）
委員 惣川 ひさえ（市民委員）
委員 泉 あや子（市民委員）
事務局 中村 貞夫（学校教育課長）
田邊 勇貴（学校教育課教育庶務係長）
田添 晟風（学校教育課教育庶務係）
担当課 森 旦憲（学校教育課長補佐（兼）教育政策係長）

4 欠席者 なし

5 傍聴者 なし

6 議 題

（1）令和8年度（令和7年度実施事業）再評価について②

担当部署：学校教育課

（2）その他

7 会議概要

委員長 これより、令和8年度第3回狛江市教育委員会の自己点検及び評価に関する審査委員会を開催する。
まずは事務局から、本日の資料の確認をお願いする。

事務局 資料は、次第、狛江市教育委員会の自己点検及び評価報告書（1-2-1-1 抜粋）、学校教育課説明資料（スライド資料）である。
本日は担当部署として、学校教育課より森 旦憲学校教育課長補佐（兼）教育政策係長が出席している。

委員長 次第に従い、議事を進める。
議題1「令和8年度（令和7年度実施事業）再評価について②」について審議する。
本日は、「1-2-1-1 確かな学力の定着とDXの時代を生き抜くための基礎的・基本的な知識・技能の伸長を図ります。」の担当部署である学校教育課にお越しいただいている。
それでは、学校教育課より、昨年度の取組結果等、事業内容の説明をお願いします。

（学校教育課より、資料に基づき説明）

委員長 それでは、質問、意見をいただきたい。

副委員長 授業支援アプリの起動率が週で45%とあるが、こちらは学級単位でのカウントになるのか。また、週一回でも使用するとカウントされるのか。

学校教育課長補佐 こちらの対象アプリは「オクリンクプラス」となり、本アプリは、授業での使用が中心となる。週内に起動したアカウントの割合（1週間のアクティブユーザー数）ゆえ、週1回でもカウントされる。

副委員長 「ドリルパーク」の43%も同様の考え方か。また、「ドリルパーク」は児童生徒が使うものなのか。

学校教育課長補佐 「ドリルパーク」も同様に週内で起動したアカウントの割合で、児童生徒が利用する。ただし、学校によっては家庭学習で使用しているため、学校外で使用する際に起動したものも含まれる。

副委員長 このKPIは、学級単位、児童生徒単位等、集計単位によって実績値の捉え方が異なることから、算出方法を明示することが望ましい。
生成AIのガイドラインだが、教員が使用する前提になっていると思うが、授業等で児童生徒が使用することは可能か。また児童生徒が使用することについての考えを教えてください。

学校教育課長補佐 現在は、教員が使い方を理解していく段階である。その上で、正しい使い方を児童生徒に教えていくことを想定しているため、児童生徒は現時点ではChat GPT等の生成AIのアプリケーションを利用できない状態としてい

る。しかし、アプリケーションの中にAIが組み込まれているものもあり、全てを制御できていない。

副委員長 今回の項目は、日々状況が変化する中で、情報を集めることだけでも大変だと思う。その中で、適切に対応されているので評価したいと思う。

惣川委員 生成AIを使用することで、児童生徒が触れる情報がこれまでと変わり、リスクが伴うことが想定される。どのようにリードしていくのか、生成AIによって児童生徒が考えることをしなくなるもののリスクは考えているのか。

学校教育課長補佐 子どもによる生成AIの使用については、教育面も含めて多面的なリスクを伴うものと認識している。そのため、児童生徒の使用時期等については、生成AIが児童生徒へ与えるメリット、デメリットを総合的に検討し、慎重に判断していかなければいけないと考えている。

泉委員 KoKoAでもタブレットを使用している児童を見かける。ゲーム感覚で課題等を行っていることは良いと思う。本来の使用用途とは違う使い方をしていることについての指導は行っているか。

学校教育課長補佐 児童生徒に貸与しているタブレットについては、フィルタリングソフトにより、不適切なサイトの閲覧を制限するとともに、自由にアプリケーションをインストールできない設定としている。また、これらと併せて、学校では教員の対面指導によりトラブルを防ぐための注意喚起を行っている。

委員長 積極的に生成AIを使用する学校もあり、使用することで、リスクを回避することが出来ると考えている学校もある。
 狛江市として、生成AIパイロット校のような学校を設定することは考えているか。

学校教育課長補佐 先ほどお答えしたとおり、子どもの生成AIの使用については、利点とリスクを踏まえて慎重に検討していく必要があると考えており、現状、パイロット校を設定することは考えていない。他自治体での取組を参考にし、バランスを見ながら、良い方向に進めるように検討していく。

惣川委員 学校におけるタブレットの保管はどのようにしているか。

学校教育課長補佐 学校に充電保管庫を整備している。家庭学習で使用することもあるため、学校によって運用は変わってくるが、教育委員会として家庭への持ち帰りを制限することはしていない。

惣川委員 それは教員個人の方針か学校の方針か、どちらにより運用されるのか。

学校教育課長補佐 基本的には学校の方針で運用されているが、個別ケースは個々の教室で判断されることかと思う。

惣川委員 タブレット自体が重く、持ち帰りが大変と聞いているが、市が導入しているものはいかがか。

学校教育課長補佐 国の基準は満たしている。

惣川委員 配布しているタブレットの種類はなにか。

学校教育課長補佐 iPadを貸与している。他自治体だと、主にMicrosoft社やGoogle、iPadがメインになっている。

副委員長 生成AIは思考のサポートを行う面や代替してしまう面もある。小学校教育では、慎重に扱った方が良いと思っており、狛江市の考えには賛同している。

現代の教育では、主体的な学びや深い学びと言われているが、生成AIを使用することで学びの過程をスキップすることは好ましくない。教育では、手間暇かけて、過程を大切にすることが大切だと思う。リスク等も含めて、慎重に考えていただきたい。

委員長 今回の分野に関しては、教育委員会として最善の策を模索し、ミライシードやiPadの導入など、多摩地区の中でも早い段階で取り組んでいると思う。

今後、財政格差により、機器等に充てる費用等に差が出ると思うが、狛江市は26市の中でどのくらいの水準にいるのか。

学校教育課長補佐 26市の中では、標準的な位置にあると認識している。

委員長 東京都において、校務支援システムの共通化を行うとの話があったが、補助金等はあるのか。

学校教育課長補佐 システム構築におけるコストや都と市における費用分担等については、現在整理を行っている段階である。

委員長 自治体により、校務支援システムが異なることもあり、人事異動の際に操作等を覚えるところから始めていたが、今後はそのようなことが解消されるのか。

学校教育課長補佐 そのような課題を解消することも、システム共通化の大きな狙いの一つとされている。

委員長 粕江市では、教育の本質に視点を当てながら、慎重に検討し、他にも遅れないように考えていると思う。日々、状況が変化していく中で、新しい教育活動を推進できるように尽力していただきたい。

これにて本日の質疑を終了する。

次に、「(2) その他」について、事務局から次回の日程の確認をお願いする。

事務局 次回の第4回は、7月24日に開催する。答申案のまとめを行いたい。

委員長 特に無ければ、これにて令和8年度第3回粕江市教育委員会の自己点検及び評価に関する審査委員会を終了する。